



(←HP)

「数字では測れないもの」

校長 菅谷和孝

2月を迎えました。寒さの中にも、少しずつ春の気配を感じる季節です。3学期は1年のまとめと言われますが、私はこの時期を「0学期」と捉えています。次の学年に進む前の準備期間。まだ始まっていない未来を思い描きながら、心の中で次の自分をつくり始める時間です。

3年生にとっては卒業後の生活へ向かう0学期。2年生は最高学年になる0学期。1年生は先輩になる0学期です。学年が変わるのは4月ですが、その準備はすでに毎日の中で始まっています。0学期とは、特別なことをする期間ではありません。いつもの授業、いつもの生活、その一つ一つの中で「次の自分ならどう行動するか」を少し意識してみる時間です。小さな心がけの積み重ねが、やがて大きな成長を生み出します。

この「未来を思い描く力」について考えさせられる出来事がありました。スノーボード選手の平野歩夢選手の挑戦です。前回のオリンピックで金メダルを獲得し、今回は2連覇への期待が大きく寄せられていました。さらに、彼は新しい技への挑戦を続け、常に自分を進化させようとしていたと言われていました。

平野選手は冬の競技だけにとどまらず、夏のオリンピックではスケートボードにも挑戦していました。それは、今ある自分に満足するのではなく、「さらに先へ進みたい」という強い思いの表れだったのだと思います。その姿は、本校が大切にしている「藤中 Action」にも重なるものでした。その平野選手ですが、世界の頂点に立ってもなお、まだ見ぬ世界を思い描き、自らの可能性を広げようとする姿を示してくれていました。

しかし、今回の大舞台(オリンピック)を前に、公式戦で大きなけがを負います。骨折を含む重傷で、本来なら棄権しても不思議ではない状況だったと報じられていました。それでも彼は競技の舞台に立つことを選びます。万全ではない身体で、痛みや不安を抱えながらも、応援してくれている人々に痛みを感じさせないような振る舞いを見せながら挑戦をやめませんでした。そのような中、オリンピック決勝での2回目の挑戦。この挑戦はまさに覚悟を感じさせるものでした。結果として点数は思うように伸びず、メダルには届きませんでした。会場には大きな拍手が送られ、多くの人がその姿に心を動かされました。きっと、私たちが心を打たれたのは、結果そのものではなく、どんな状況でも前を向こうとする姿勢だったのではないのでしょうか。

さらに印象的だったのは競技後の姿です。自分がメダルを逃したにもかかわらず、結果を出した後輩たちを心から称え、共に喜ぶ姿が映し出されていました。勝敗や順位を超えた、人としての大きさを感じさせる場面でした。競技は個人の戦いでありながら、そこには仲間を認め合い、支え合う関係があることを改めて教えられました。

そして競技後、ある日本の企業が平野選手に向けて次のようなメッセージを発信しました。「满身創痕の中でも、常に限界を恐れず戦い続ける、そのひたむきな姿勢は、私たちの心に深く刻まれました。数字だけでは表すことができない、その偉業に最大限のリスペクトを表したいです。」

この言葉が多くの人々の共感を得たのは、結果ではなく「挑戦する姿」そのものを見つめていたからではないでしょうか。

学校生活でも同じです。私たちはつい、点数や順位など目に見える結果に気持ちが向きがちです。しかし、本当に大切なのはそこへ向かう過程です。苦手なことに挑戦する勇氣、失敗しても立ち上がる力、仲間を思いやる姿勢。そうしたものは数字には表れなくても、確かにその人の中に力として残っていきます。

「0学期」とは、まさにそのような力を育てる時間だと思っています。

まだ始まっていない未来を想像し、「こんな自分になりたい」「こんなことに挑戦したい」と考えること。そして、そのために今できる小さな一歩を踏み出すこと。平野選手が常に進化を求め、まだ見ぬ世界へ挑戦し続けてきたように、生徒の皆さんにも自分の可能性を自分で決めつけず、一歩を踏み出してほしいと願っています。

挑戦は必ずしも大きなものである必要はありません。昨日より少し早く行動すること、苦手なことに一度だけ挑戦でみることに、誰かにやさしい言葉をかけること。そうした小さな挑戦の積み重ねが、やがて大きな自信へとつながっていきます。

未来は、今の積み重ねの先にしかありません。新しい学年になってから変わるのではなく、今から少しずつ準備を始めること。その積み重ねが、4月の自分をつくります。

そしてもう一つ、大切にしてほしいことがあります。それは、挑戦している人を認めることです。結果が出たときだけではなく、努力している過程や、挑戦しようとしている気持ちそのものを認めること。そのまなざしや言葉が、次の一歩を支える力になります。学校は一人で頑張る場所ではなく、互いを認め合いながら成長していく場所でもあります。そのために、私たち教職員も、生徒一人一人の挑戦や努力を丁寧に見取り、「できたこと」だけでなく「挑もうとしている姿」そのものを大切にしながら、日々の教育活動を積み重ねていきます。

もうすぐ春がやってきます。新しい学年、新しい役割、新しい景色が待っています。その時に、「この0学期で少し成長できた」と胸を張って言えるよう、1日1日を大切に過ごしていきましょう。

まだ見ぬ未来を思い描き、そこへ向かって挑戦し続けること。その姿勢を、藤久保中学校では、いつまでも応援しています。



毎日新聞より